

令和6年度 自己評価実践計画書

福島県立小高産業技術高等学校

部署	今年度の目標	実践方法
教務部	基礎学力の定着と授業力の向上に努める。	授業交換等の対応で自習時間を減らし、授業時間の確保に努める。
		主体的に学ぶ授業実践や言語活動を通して、思考力や探究心などの育成を図るため、多様な授業形態の研究・実践に努める。
		生徒の学習状況を見極めながら、わかる授業の実践に努めるとともに、学年などと連携しながら、成績不振者に対する改善指導を早い段階から行う。
		各種研修会・研究会の案内・参加を推進し、教員の指導力の向上に努める。
	健やかな体と豊かな心の育成に努める。	生徒各自が、自己の健康管理に留意して生活することで、精勤・皆勤を目指すように指導する。
		欠席や欠課時数の多い生徒に対しては、担任等と協力し、生活等の改善ができるように指導する。
	式典を滞りなく行う。	各部・各係との連絡調整に努める。
	学校要覧、学校パンフレットを遅滞なく作成する。	作業日程を決め、一つ一つ実施していく。
	P T A活動の活性化を図る。	保護者との連携を深め、P T A活動の活性化に努める。
		生徒・保護者に効果的に還元できる団体会計の運営と管理に努める。
		魅力あるP T A広報誌の発行に努める。
	同窓会活動の活性化を図る。	同窓生と職員の共通理解を図り、同窓会活動の活性化に努める。
		同窓会館の学期末に定期点検(学期末)を行い、利用しやすい環境作りに努める。
情報管理部	FACE運用設定の支援に努める。	FACEに関する設定と機器管理を行い、安定したネットワーク環境の維持に努める。
	セキュリティ意識向上とICT機器の利用に努める	セキュリティポリシーについての理解と意識向上に努めるとともに、I C T機器の利用の推進を図る。
	Webサイト等の活用促進を図る。	本校のWebサイト等の利用促進を図り、保護者、地域、産業界の方々への情報発信を支援していく。
	校務システム等の支援に努める。	校内での各種校務処理システムの支援を行い円滑な処理に努める。
生徒指導部	挨拶の励行等を通して、礼儀作法を身に付ける。	毎月の全職員による登校指導と生徒会と共に校門や街頭での挨拶運動を適宜実施していくとともに、登校マナーの改善に努める。
	学校や社会のルールを守る等、規範意識の向上に努める。	校内での指導（学校生活内での指導・服装頭髪指導）や校外での指導（駅頭指導・下校指導等）を実施し、定期的に注意喚起をしていく。
	生徒会行事を成功させる。	生徒会行事や委員会活動において、まとめ役を中心とした活動を展開し、達成感とともに積極性や責任感を身に付けさせる。
	部活動を活性化し、より良い人間関係を構築する。	部活動顧問会を適宜開催し、部活動の支援に努め円滑な部活動を通して望ましい人間関係を育てながら、適正な学校生活につながるよう努めていく。
	ボランティア活動の推進に努める。	各種委員会と連携し、校舎内外で清掃ボランティア活動を実施する。また、地域の関係機関と連携し、各種ボランティア活動を実施する。

進路指導部	進路に対する意識の啓発に努める。	「進路だより」やWebページを活用して進路情報を発信し、保護者と連携しながら生徒が進路活動に主体的に取り組む姿勢や態度を育成する。
	キャリア教育を推進し、生徒自らの確かな進路選択ができるように指導する。	進路に係る各ガイダンスを通して、現在や将来において成すべきことや社会から求められる人材等について理解を深めさせ、キャリア教育の一環とする。
		各種検査を実施し、自身の適性・興味・関心・能力を把握させ、進路選択の一助とする。
		校内企業説明会や進学ガイダンスを実施し、職業や企業、学校について生徒の理解を深めさせ、生徒のよりよい進路選択につなげる。
	全生徒の進路希望の実現に尽力する。	早期に企業訪問を実施し、今年度の企業動向の把握や求人確保につなげる。来校者の応対や説明会への参加等により得た情報を共有し、指導に生かす。
		進路に係る各手続き等において、各科・学年との連携を密にして指導する。
保健厚生部	生徒自ら望ましい生活習慣を確立し、心身の健康の保持増進、豊かな人間性の育成に努める。	【保健】健康診断の結果・昨年度の生活習慣実態調査結果での問題点を明確にし、個別指導、集団指導、学校保健委員会での発表や健康の保持増進に関する指導に役立てる。
		【保健】関係者と連携し、組織として生徒が理解実践できる個別指導・集団指導を実践する。
		【防火・防災】防火管理点検、防火訓練を推進し、施設の防災に努め、緊急の災害に備え、防災意識の高揚を図る。
		【環境整備・安全管理】毎日の清掃とゴミの分別を徹底し、定期的の大掃除・ワックスがけを実施する。
教育相談部	生徒の心の理解と適切な指導援助に努める。	担任を中心とした支援体制を整える。
		各学年・各科・生徒指導部との連携を図り、職員間の共通理解を図る。
	教育相談体制の充実を図る。	スクールカウンセラーを活用し、外部関係機関との連携を図る。 教育相談についての教員の研修を推進する。
図書部	充実した図書館整備に努め、開かれた図書館作りを推進し、生徒の読書活動と主体的な学習活動を豊かにする。	授業や進路活動に役立つ書籍や生徒の興味関心を引く図書館資料を充実させる。
		利用者が手に取りやすいように、話題に合わせた特設コーナーを設置する。
		図書委員の活動を充実させ、生徒主体の図書館作りに努める。
		新着本や話題の本などを紹介した図書だよりを定期的に発行し、年度末には図書館報を発行して図書館利用の啓蒙活動に努める。
	生徒の文化意識を高め、情操教育に努める。	文化的な芸術鑑賞教室開催の準備を行い、生徒が芸術に直接に触れる機会を設けるようにしていく。

1 学年	小高産業技術高校生としての自覚を持ち、健全で安全な高校生活を送れるように努める。	毎日のH Rや授業を利用し、端正な服装・頭髪を心がけるよう指導する。また、挨拶の徹底を図る。
	基本的生活習慣を身に付け、協調性を持って高校生活を送る。	保護者との連携を密にし、遅刻・早退・欠席の減少を図るとともに、各種行事に対して計画的に協力して取り組ませる。
	進路に対する意識を啓発し、基礎学力の定着、資格取得、部活動に対して積極的に取り組むことで人間性を高めさせる。	適性検査や進路ガイダンスを実施し、進路に対する早期の意識付けを図るとともに、日々の授業や課外、朝自習が進路実現に大きな力となることを自覚させ、学習や資格取得、部活動に対する意欲の高揚を図る。
2 学年	中堅学年としての自覚と責任を持ち、諸活動に積極的に参加し運営する態度の育成に努める。	学校行事や各種委員会活動等に積極的に参加するよう促し、責任感を身に付けさせる。
	基礎学力の定着と各種資格取得に取り組ませ、進路目標の具体化を図る。	日々の授業への取り組みを向上させることで、基礎学力の定着と学習意欲の向上を図る。また、スキルアップの重要性を認識させ、各種資格受検を促す。企業説明会やインターンシップ、学年集会等を通じて、進路の意識付け及び目標の具体化を図る。
	時間の厳守と整理・整頓・清掃の徹底を図り、基本的生活習慣と社会人になるために必要な資質を身につけさせる。	保護者との連携を密にし、遅刻・早退・欠席の減少を図る。 毎日のH Rや授業を利用し、端正な服装・頭髪及び教室の整理整頓を心がけるよう指導する。（基本的生活習慣の徹底）
		校内生活において、挨拶の徹底を図る。
3 学年	最高学年としての自覚を持ち、諸活動に積極的に参加し運営する態度の育成に努める。	各種行事（清掃活動・各種講演会・文化祭・スポーツ大会等の活動）において、そのまとめ役となるよう喚起し、積極性や責任感を身に付けさせるように努める。
	進路の実現に向けて、学力の向上と定着を図るとともに、各種検定等に積極的に取り組ませる。	進路の実現に向けて、一般常識やS P I の対策問題集等の学習により学力の定着を図るとともに、スキルアップの重要性を認識させる。また、各種検定等も積極的にチャレンジさせる。
	自己理解・啓発を深めることで個性や才能を伸長させ、より良い進路の実現を図る。	模擬テスト・各種検査を通して客観的に自己を把握させるとともに、三者面談等を通して生徒の進路目標の明確化を図る。
	自主的・自律的態度の育成、良識ある社会人として必要な勤労観・職業観の育成に努める。	日々の授業、進路行事、講演会等の学年行事を通して、社会人・職業人としてどうあるべきかを考えさせる。
工業科	国家資格取得を目指す。	危険物取扱者試験について 9 月～ 1 0 月、1 月に課外授業を実施する。
		電気工事士資格取得に向けて、筆記・実技試験の課外授業を実施する。
		工事担任者試験に対して 6 月から課外授業を実施する。
		ガス溶接技能講習について、1 2 月下旬（1 学年）に 3 日間の講習を実施する。
		ボイラー取扱技能講習について、1 2 月下旬（2 学年）に実施する。
商業科	「専門高校による小中学生体験学習応援事業と小・中学校のキャリア連携事業」等に参加し成功させるとともに、本校の取り組みを外部にアピールする。	各種事業を通して「ものづくり」教育の充実を図る。
		小、中学校の教員とキャリア教育についての情報交換を行う。
		小、中学生を対象とした体験型授業を本校で実施する。
	授業の内容を発展させ、検定の合格を目指す。	課題研究発表会を実施する。
		全商簿記実務検定、全商情報処理検定、日商簿記検定、日商販売士検定、ファイナンシャル技能検定に向けて、課外授業を実施する。
	ビジネス社会におけるマナーやコミュニケーション能力、問題解決能力を育成する。	ITパスポート試験、日商簿記検定、日商販売士検定に向けて、外部講師を活用した課外授業を実施する。
		授業の始業時と終業時にあいさつや身だしなみ、言葉遣い、授業の受け方や心構えについて日頃より指導を行う。主体的にコミュニケーションを取れるよう、授業においてロールプレイングなど実践的な活動を展開する。 社会人としての資質を養うために、TPOをわきまえた言語活動を積極的に授業に取り入れる。また企業の方を招いた講話学習等を実施し、地域社会に積極的に関わりの貢献できる資質を養う。